

2019年3月18日

愛媛県がん対策推進委員会  
会長 殿

愛媛県がん対策推進委員会  
委員 忽那博司（がんの子どもを守る会愛媛支部）  
中橋 恒（医療法人聖愛会）  
早瀬昌美（愛媛新聞社）  
松本陽子（愛媛がんサポートおれんじの会）  
吉田美由紀（医療法人聖愛会）

### 小児・AYA世代のがん患者への支援について

第3期愛媛県がん対策推進計画に明記された「小児・AYA世代のがん患者及び家族に対する長期フォローアップ等支援の充実」について、今後具体策を検討するにあたり、以下の3点を要望します。

#### 1. 在宅での療養生活の支援

…小児慢性特定疾病児童に関する政策と、介護保険制度との狭間に置かれた20歳～39歳の患者は、公的支援の届かず、在宅療養を望んだ場合は介護用ベッドや車いすなどを全額自己負担しなければなりません。若年世代での罹患は、経済的備えが十分でない中で生活費と子どもの養育費、治療費が重なるなど負担が重いため、経済的な理由によって、住み慣れた自宅での家族との生活を断念せざるを得ないケースもあります。

在宅療養に必要な用具利用料の補助などにより、すべての県民が年齢に関わらず、希望する場所での療養生活が送れるよう支援することを望みます。

#### 2. 当事者のニーズに沿った支援

…県が実施したがん診療連携拠点病院等対象の調査により、急性期の治療を受けている患者のニーズはある程度明らかになりましたが、経過観察中や治療終了後などの患者・経験者、家族のニーズを網羅的に把握するには十分とはいえません。県の委託を受け小児から移行期の相談事業を担っている認定NPO法人や、在宅医療・介護機関、さらに当事者の意見などを聞き、より現状に即した具体的なニーズや困りごとの掘り起こしを行い、対策に反映されることを望みます。

#### 3. 具体策を検討するワーキンググループの設置

…2月定例県議会で、知事自ら「がん対策は重要な課題である」と答弁し、さらに若年世代への支援についても言及しました。この点を踏まえ、県として具体策の検討を急ぎ進めていただきたいと考えます。2019年度のがん対策推進委員会などに実効性のある対策を提案できるよう、委員会とは別にワーキンググループなど少人数の検討の場の設置を望みます。